

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4年 6月 22日

静岡県知事 川勝 平太 殿

提出者

住 所 静岡県富士市吉原一丁目11番8号

氏 名 松本工業株式会社 佐藤義幸

電話番号 0545-52-3030

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	松本工業株式会社
事業場の所在地	静岡県富士市吉原一丁目11番8号
計画期間	令和3年度4月1日～令和4年度3月31日

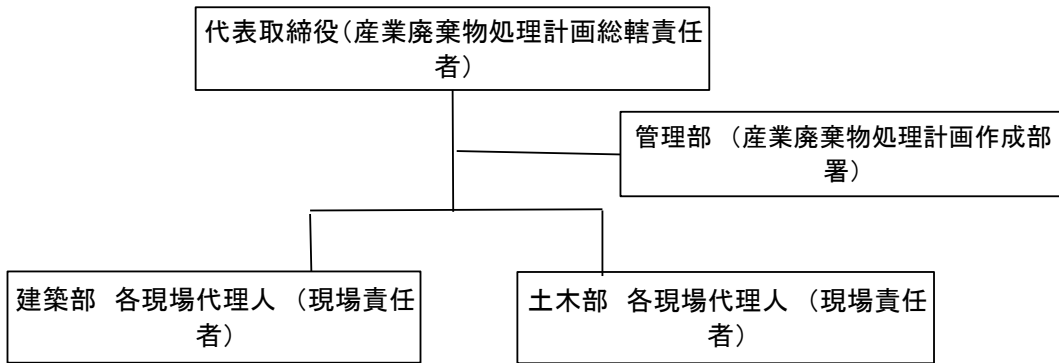
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	総合建設業
② 事業の規模	元請完成工事高：14億1千7百万
③ 従業員数	42名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	コンクリートがら・アスコンがらがれき類・建設汚泥・木くず・ 廃プラスチック類等 → 中間処理施設 → 再生利用

（日本産業規格 A列4番）

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

	【前年度(令和3年度)実績】							単位 ( t )	
	産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	ガラスくず等	安定型混合廃棄物	管理型混合廃棄物		
①現状	排出量	2172.64	823.31	56.74	46	40.15	29.0		
	(これまでに実施した取組)								
	総排出量のうち、「アスコンがら」と「コンクリートがら」で全体の93%を占める。そのすべてが中間処理施設で破碎して、アスファルトの骨材として再生利用される。残りの7%のうちほとんどは、何らかの形で再生利用されている。総排出量は、その年度の受注工事の内容で変化する。								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	アスコンがら	コンクリートがら	木くず	ガラスくず等	安定型混合廃棄物	管理型混合廃棄物		
	排出量	2172.64	823.31	56.74	46	40.15	29.0		
	(今後実施する予定の取組)								
	設計図書の指示通りに再生資源を利用する。今後も分別を徹底する。								

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) アスコンがらとコンがらを搬出する際、極力混載を避ける。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記取組の徹底。

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類_	アスコン がら	コンクリート がら	木くず	ガラスくず等	安定型混 合廃棄物	管理型混 合廃棄物
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0
(これまでに実施した取組)							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類_	アスコン がら	コンクリート がら	木くず	ガラスくず等	安定型混 合廃棄物	管理型混 合廃棄物
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0
(今後実施する予定の取組)							

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類_	アスコン がら	コンクリート がら	木くず	ガラスくず等	安定型混 合廃棄物	管理型混 合廃棄物
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0
自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0
(これまでに実施した取組)							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類_	アスコン がら	コンクリート がら	木くず	ガラスくず等	安定型混 合廃棄物	管理型混 合廃棄物
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0
(今後実施する予定の取組)							

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	アスコン がら	コンクリート がら	木くず	ガラスくず等	安定型混 合廃棄物	管理型混 合廃棄物
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0
(これまでに実施した取組)							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	アスコン がら	コンクリート がら	木くず	ガラスくず等	安定型混 合廃棄物	管理型混 合廃棄物
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行 う	0	0	0	0	0	0
(今後実施する予定の取組)							

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】							単位（ t ）
	産業廃棄物の種類	アスコン がら	コンクリート がら	木くず	ガラスく ず等	安定型混 合廃棄物	管理型混 合廃棄物	
	全処理委託量	2172.6	823.31	56.74	46.0	40.15	29.0	
優良認定処理業者への 処理委託量								
再生利用業者への 処理委託量	2172.6	823.31	56.74	46.000	40.15	29.0		
認定熱回収業者への 処理委託量								
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量								
(これまでに実施した取組)								
<p>当社の産業廃棄物の総排出量のうち、【アスコンがら】・【コンクリートがら】の2種類が93%を占める。 そのすべてが中間処理施設で破砕して、アスファルトの骨材として再生利用される。 残りの7%のうちほとんどは、何らかの形で再生利用されている。</p>								

## (第5面)

	【目標】							単位 ( t )						
	産業廃棄物の種類	アスコン がら	コンクリート がら	木くず	ガラスく ず等	安定型混 合廃棄物	管理型混 合廃棄物							
②計画	全処理委託量	2064.0	782.14	53.903	43.7	38.143	27.55							
	優良認定処理業者への 処理委託量	206.4	78.214	5.3903	4.37	3.8143	2.755							
	再生利用業者への 処理委託量	2064.0	782.1	53.9	43.7	38.1	27.6							
	認定熱回収業者への 処理委託量													
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量													
	(今後実施する予定の取組)													
<p>排出量と種類は受注工事の内容による。  設計図書に指示通りに再生資源を利用する。  混廃の発生を抑制するため、今後も分別を徹底する。  優良認定処理業者への委託の割合を増やす。</p>														
※事務処理欄														